



千葉労働運動

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話(鉄電) 千葉 2935・2936番
(公) 043(222)7207番

96'6.24 No.4419

スト体制構築/革マルの敵対粉碎 78回定期委員会結果を!

「正念場の国鉄争い」

全ての組合員のみなさん！
七月八日、第三六回定期委員会に全力で結果することを訴えます。

謝罪拒否・作業再開にはストライキだ

今回の定期委員会のかととるべき課題の第一は、木更津・幕張問題に見られる、脱退強要や安全無視の有機溶剤作業強要を居直るJR当局に対し、断固たる反撃を叩きつける総決起の場とすることである。

白昼公然と動労千葉組合員への脱退強要を行なった木更津支区・小関支区長の責任追及に對して「事実はない」「関知しない」と居直る千葉支社を絶対に許すことはできない。脱退強要に對する謝罪と不当労働行為の掃へに向けて、いつでもストライキに突入できる組織体制をさらに強化しよう。

また、幕張での有機溶剤作業についても「法的にはグレーゾン」と開き直り、作業の再開を目標む千葉支社の責任は重大である。労働者の生命を全く無視して有害な作業をさせておいてその責任を明らかにするどころか、支社・現場での責任逃れは到底許されるものではない。有機溶剤作業の再開を絶対に許

さす、スト体制を構築しよう。

「革マル問題」が最大の焦点

かちとるべき課題の第二は、「列車妨害は国労」と叫び、国労や動労千葉に對して組織破壊攻撃を宣言したJR総連革マルの解体・一掃へ反撃体制の強化をかちとることである。

さらに、このJR総連革マルの国労・動労千葉への組織攻撃宣言と期を一にして、中野委員長に對して「すみやかに葬りさる」などとテロを宣言した革マル派を断じて許すことはできない。

国鉄分割・民営化一〇年目に突入し、その破綻が明らかとなり、さらに解雇撤回を求めて闘う清算事業団労働者を先頭とした国鉄闘争の勝利へ向けた前進の前に、ファシストとしてその正体を明らかにしたJR総連革マルの解体・一掃なしに国鉄闘争の勝利はありえない。この九六―九七年の国鉄闘争の正念場において、「革マル問題」が最大の焦点となり、さらに「JR体制」の弱点でもある。JR総連革マル―革マル派の敵対を粉碎し、国鉄闘争に勝利しよう。

七月八日、第三六回定期委員会に結果しよう。

「格差回答」 弾劾！

貨物会社は、今年の夏期手当について、「二・四ヶ月」という、JR七社の中で最も低額の回答を行なった。われわれは、この低額・格差回答を怒りをこめて弾劾する。

回答書の中で貨物会社は、「經常利益においても赤字を計上し、三期連続の赤字となりまし

た」、「経営は依然として厳しい状況」とのべ、「二・四ヶ月」の理由にしている。だが、鉄道事業・関連事業をあわせた営業損失は約三〇億円であり、残り約六〇億円は、営業外費用、すなわち「借金」の利息なのである。この間の設備投資(しかも老朽化した設備の更新が中心)を借金で行ってきたツケが出て来たのである。

しかし、土地売却による利益は、早期退職者への割増退職金

を引いて、一〇〇億円にのぼり、經常利益、法人税を差し引いても七億円の当期利益を生み出している。

高齢者には土地を売却して退職金を生み出しても早期退職をせまり、現に働く労働者には「經常赤字」を理由に手当を削る。これが今日の貨物会社の姿である。

ここに、分割・民営化の矛盾と破綻の姿がはっきりと表れている。

同時にこれは、「分割・民営化を良とする」JR総連・日貨労にとつては解決のできない問題である。JR総連・日貨労を打倒し、貨物会社のおし進める「七〇〇〇人体制」は「フレイト二一」による労働者への犠牲のしわ寄せをこれ以上許してはならない。

新たな10万人合理化粉碎！労働運動の新たな潮流めざし全国へはばたこう！

78回定期委員会結果は